

研究テーマ	山梨県郷土伝統工芸品に関する調査研究（第2報）		
担当者 （所属）	秋本梨恵・串田賢一（デザイン）		
研究区分	経常研究	研究期間	令和元年度～令和2年度

【背景・目的】

山梨県では、「山梨県郷土伝統工芸品」として12の品目を指定しており、そのうち3品目は国の伝統的工芸品に指定されている。伝統工芸は、全国的に生産額・従事者数の減少傾向が続いており、本県においても、後継者不足や需要変化に対応できず、存続が危機的な状況になっている品目もある。また、小規模企業が多いために、産地として一般消費者に知ってもらうための情報発信力が不足している。本研究では、山梨県の郷土伝統工芸品に関する歴史や技法等を、将来に残せるかたちで記録・保存することで文化的地域資源の伝承につなげること、またそれらの情報を効果的に発信することで、伝統産業の新たな発展につなげることを目的とする。

【得られた成果】

1. ヒアリング調査

郷土伝統工芸品の産地組合、生産者、関係者を対象にヒアリング調査を行い、結果についてSWOT分析により整理し、各品目共通の課題、機会、品目の特性による課題の違い等について考察した。

2. 山梨県郷土伝統工芸品の認知度調査（WEBアンケート調査）

山梨県を含む全国の20代～70代の一般消費者1,000名を対象として伝統工芸品の購買経験、山梨県郷土伝統工芸品の認知についてWEBアンケート調査を実施し、各品目の認知度等について明らかにした。

3. 各品目の歴史・技法に関する調査・取材・動画撮影

山梨県郷土伝統工芸品12品目について、歴史及の文献調査及びヒアリング調査、原料・道具・工程の写真記録および各工程の動画撮影を行った。（図1）

4. 冊子及び編集動画の作成

12品目の特徴、歴史、技法（工程・素材・道具）、新しい製品や取組みについて、情報発信するための冊子としてとりまとめた。また工程の動画を情報発信用に編集した。



図1 製造工程動画記録の抜粋（甲州武者のぼり・鯉のぼり／親子だるま／市川大門手漉和紙）

【成果の応用範囲・留意点】

作成した冊子を配布、活用して郷土伝統工芸品の認知向上、新製品等の開発やコラボレーション等につなげる。動画記録については、ウェブサイト等による発信方法を検討し、活用する。